

水土里ネット神田、水土里ネットタケルが参画

東員町農業商工祭 開催



去る11月14日(日)に東員町スポーツ公園陸上競技場で東員町農業商工祭が開催され、大勢の来場者で賑わった。

会場ゲートをくぐれば、水土里ネット神田の皆さんが手間暇をかけて編んだむしろ、すずみ、そして趣向を凝らした



来場者を出迎えるかかし

かかし「横綱 神田山」、「イナバウアー」などが出迎え、会場に向かう来場者の目を惹きつけていた。

会場内のブースでは、揃いの法被を着た役職員が土地改良区の愛称である「水土里ネット神田」ののぼりを目印に立ち寄る来場者に受益地



水土里ネット神田のブース



水土里ネットタケルのブース

内で収穫されたキャベツ、白菜、とうもろこしなどを提供していた。

一方、会場の入口付近に設営された水土里ネットタケルのブースでは、環境教育・農業体験を目的とした「めだかの学校」で放流されているメダカが展示され、立ち寄る来場者は水槽内で元気良く泳ぎ回るメダカを見入っていた。さらに受益地内中上地区の特産品である梅幸あられなどを提供していた。

どちらの水土里ネットとも、地域の自然や文化を守り、都市と農村の交流を図るためにいろいろなイベントへの参画をしていく予定である。

農業用水水源地域への植樹活動

伊勢市 宮川用水土地改良区



参加者による記念写真

宮川用水土地改良区では、宮川用水の水源地域(多気郡大台町、旧宮川村地内)に植樹活動を行っています。今年で4年目になります。今年、12月2日に170名の参加者が急斜面にもかかわらず、自然配植協会や宮川森林組合の方々の指導を受け植樹に汗を流しました。

日本有数の降雨地帯である大台山系を源とする当地域でも、農業用水の需要が高まる一方、気候の変化による少雨傾向も起因し、干ばつによる水不足が頻繁に起こるようになってきています。

また、水源地域の森林の伐採が行われ、大台山系においても山肌が見える所も数多くあることも起因してか平成16年には台風21号により大台町(旧宮川村)では大きな打撃を受けました。

当宮川用水地域でも水の供給が危ぶまれ、隔日通水の夜間断水という状況に追い込まれ、農家の皆さん共々、「水」のありがたさを痛感させられたところ。



急斜面での植樹

このようなことから、利水する私たちが「水源地域の森林回復に少しでも役立つ、感謝の気持ちを水源地域へ」ということで「農業用水水源地域保全対策事業」の採択を受け植樹活動を行うとともに、地域の小学生10,000名を対象にしたアンケート調査結果から小学生の環境への関心の高さを知り、「身近で拾ったどんぐりで苗木を育てる」活動も行っています。



小学生による「身近で拾ったどんぐりで苗木を育てる」活動(種まき後1年経過)

この4年間で植樹活動に参加して頂いた人は、中学生、農業関係者、一般の方々約600名で10年、30年先の森の姿をイメージして約50種類、3700本の植樹を行いました。

今後もこの植樹活動を続けていくことと、「育てよう水土里の森、守ろう心ふる里」を合い言葉に小学生を対象としたPR活動を行い、小学生から社会へ情報発信をして欲しいと考えています。

地球温暖化防止と水の大切に思う気持ち を未来の子どもたちへ…